

JAバンク新潟における地域密着型金融の取組状況（令和2年度）

JAバンク新潟（県下23JAと新潟県信用農業協同組合連合会）では、農業と地域社会に貢献するため、「JAバンク新潟中期戦略」に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

令和2年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

《目次》

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援	・・・・・・・・P2
2 担い手の経営のライフステージに応じた支援	・・・・・・・・P5
3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等 地域育成への貢献	・・・・・・・・P10

1 農山漁村等地域の活性化のための金融支援

J Aバンク新潟は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク新潟は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

令和3年3月末時点のJ Aバンク新潟の農業関係資金残高^(注1)は74,282百万円(うち農業経営向け貸付金39,841百万円)、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は15,766百万円を取り扱っています。

(注1) 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

(注2) J Aバンク新潟が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 (単位：百万円)

種類	令和3年3月末現在
農業	39,841
穀作	20,738
野菜・園芸	2,142
果樹・樹園農業	891
工芸作物	149
養豚・肉牛・酪農	1,662
養鶏・鶏卵	339
養蚕	—
その他農業	13,917
農業関連団体等	34,440
合計	74,282

(注)

1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。

2 「農業関連団体等」には、J Aや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】 (単位：百万円)

種類	令和3年3月末現在
プロパー農業資金	62,851
農業制度資金	11,431
農業近代化資金	5,370
その他制度資金	6,060
合計	74,282

(注)

1 「プロパー農業資金」とは、J Aバンク原資の資金を融資しているものをいいます。

2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJ Aバンク新潟が転貸で融資するもの、②地方公共団体等が利子補給等を行うことでJ Aバンク新潟が低利で融資するものを対象としています。

3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】 (単位：百万円)

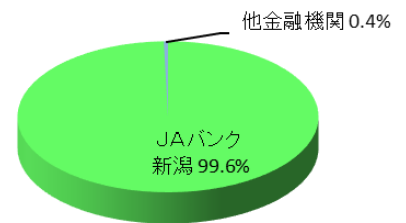
種 類	令和3年3月末現在
日本政策金融公庫資金	15,766
その他	—
合 計	15,766

(注) JAバンク新潟では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

JAバンク新潟は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【新潟県の農業近代化資金残高】 (令和2年12月末時点)

新潟県内総貸付残高	5,177 百万円
うちJAバンク新潟残高	5,154 百万円
〔出所：新潟県農林水産部経営普及課〕	



農業近代化資金 県内シェア
(令和2年12月末時点)

(2) アグリビジネス投資育成株式会社等によるファンドの活用

JAバンク新潟では、お客さまの資金調達手段の一つとして、農業法人育成のための資本供与の仕組みである「アグリシードファンド」や「担い手経営体応援ファンド」、「プロパー投資」による出資を提案しています。

令和2年度末の出資先は14先、出資総額は118百万円となりました。

【農業者向けファンド取組実績(令和3年3月末)】

(単位：先、百万円)

ファンド名	先数	出資額
アグリシードファンド	11	73
担い手経営体応援ファンド	2	35
プロパー投資	1	10
合 計	14	118

(3) 担い手のニーズに応えるための取組み

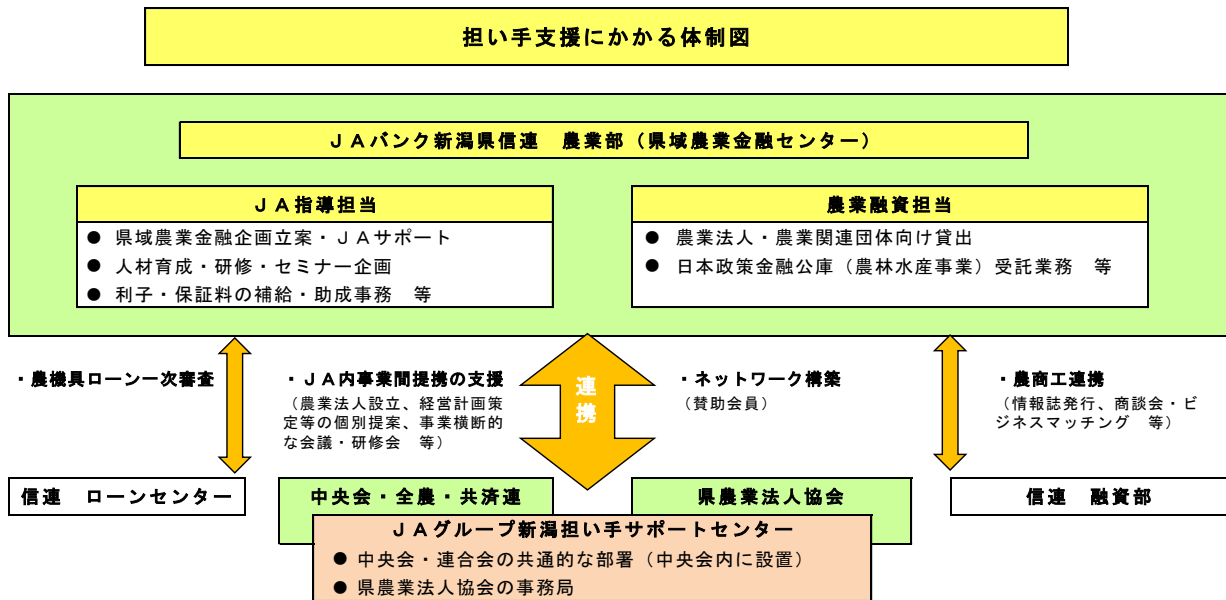
J Aバンク新潟では、地域の農業者との関係強化を目的とした体制整備に取り組んでいます。

信連では、農業部を「県域農業金融センター」と位置づけ、J Aの指導・サポート機能と農業法人等への融資相談機能を併せ持つことで、一元的な取組みを進めています。J Aの体制整備や人材育成を支援するとともに、J Aと連携した協調融資などにも取り組んでいます。

県下23 J Aでは、担い手への訪問・資金提案活動を中核的に担う「農業融資相談員」をJ A本支店（所）に194名配置し、また、農業融資の実務を統括する「担い手金融リーダー」を35名配置しています。

農業融資相談員等の相談対応力向上を目的に、J Aバンク独自の農業融資資格制度である「J Aバンク農業金融プランナー」の資格取得を進めており、県下合計で514名が資格を有しています。また、日本政策金融公庫が実施主体となる「農業経営アドバイザー研修・試験」にも取り組み、県下合計で106名が資格を有しています。

また、J Aが総合力を発揮し農業者の多様なニーズに応えていくため、信連を含めた中央会・連合会の共通的な部署である「J Aグループ新潟担い手支援室（略称：担い手サポートセンター）」が中心となり、農業法人設立、経営計画策定および事業承継の個別提案活動や事業横断的な会議・研修会の開催等を通じ、J A内事業間連携の強化を支援しています。



2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク新潟は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 「にいがた農業応援ファンド」による助成

J A自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を不断の取組みとしていくため、平成 28 年度からの 3 年間に続き、令和元年度から令和 3 年度の 3 年間における農業者への支援パッケージとして、「にいがた農業応援プログラム」を展開しています。

中でも、柱となる事業の一つである「にいがた農業応援ファンド」について、令和 2 年度は、「新潟県園芸振興基本戦略」で推進する販売額 1 億円以上の園芸産地を目指す担い手への支援事業として「1 億円園芸産地チャレンジ事業」を創設しました。また、「園芸生産拡大支援事業」、「新規・親元就農応援事業」および「商談会等販路拡大の活動支援事業」を継続し、農業者の取組みを支援しました。



にいがた農業応援ファンドを活用し、効率的な作業のための機械を導入

【にいがた農業応援ファンド取組実績（令和 2 年度）】 (単位：件、千円)

事業名	申請件数	申請額	採択件数	採択額
1 億円園芸産地チャレンジ	166	48,982	61	19,872
園芸生産拡大支援	136	25,441	132	24,510
新規・親元就農応援	52	10,400	52	10,400
商談会等販路拡大の活動支援	8	583	8	550
合計	362	85,406	253	55,332

(2) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク新潟では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、「青年等就農資金」および「新潟県新規参入者経営安定資金」を取り扱っているほか、J Aバンク新潟独自の「新規・親元就農応援事業」を展開しています。

【新規就農者をサポートする資金の取組実績】 (単位：件、百万円)

資金名	令和 2 年度		令和 3 年 3 月末 残高
	実行件数	実行金額	
青年等就農資金	14	50	348
就農支援資金	—	—	14
合計	14	50	362

(注) 平成 26 年 4 月 1 日付の法改正により、就農支援資金の新規取扱いは終了となり、新たに青年等就農資金が創設されました。

(3) 食農バリューチェーン構築による農業・地域の成長支援（商談会・ビジネスマッチング）

J Aバンク新潟は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大等の農商工連携に取り組み、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

【商談会への協賛】

ビジネスマッチングを通じた農商工連携および6次産業化の推進を目的として、県内で開催された商談会に特別協賛を行いました。

〈令和2年度に協賛した商談会の概要〉

商談会名	開催日	主催者	J Aバンク新潟の関わり方	参加団体数	総来場者数
フードメッセ in にいがた 2020	令和2年11月11日～11月13日	フードメッセ in にいがた運営会議、新潟市	J Aバンク新潟として特別協賛	239 団体	5,868 名

【情報誌「S o l e ! にいがた」の発行】

農商工連携を促進する一環として、フリーペーパー形式の情報誌「S o l e (そーれ) ! にいがた」を平成22年7月に創刊、以来年4回発行しています。

この情報誌では、県内の農業や産業に関する幅広い情報の提供により、「農と食」を基軸としたコミュニケーションを通して、農業生産者・J Aグループと地域の企業、さらには広く地域の皆さまとの結び付きを強め、新たなビジネスチャンスを生み出すきっかけづくりを目指しています。

※県内のJ A窓口や直売所、道の駅、スーパー等で無料配布しています。

※バックナンバーは、信連ホームページでご覧いただけます。



S o l e ! にいがた

(4) 講演会・セミナー等の開催

J Aバンク新潟では、農業法人等の経営安定化支援や参加者同士の情報交換、ネットワークづくりの場を提供することなどを目的として、セミナーや個別相談会を開催しています。また、融資のお取引先や農業法人等を招き、講演会やセミナーを開催し、異業種間の交流を促進しています。

〈令和2年度に開催したセミナーの概要〉

名称	主催者	対象者	内容
第14回農業法人経営者セミナー	信連	県下農業法人およびJ A等	【第一部】 演題：「農業法人の人を集める技術」 講師：すずき労務経営コンサルタント 鈴木大輔 氏 【第二部】 演題：「生産者の手取り最大化の取組強化について」 講師：J A全農にいがた 担い手営農支援部 清水勉 氏

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、セミナーを収録したDVDを農業法人の皆さまに提供する形での開催となりました。(DVD提供枚数：516枚)

(5) 事業性評価を通じた農業者の経営課題把握・課題解決ソリューションの提供・蓄積
 信連では、農業所得の向上および農業者の満足度向上に向けた取組みとして、地域の中核的な役割を担う農業者に対し、業種特性や外部環境・内部環境を踏まえたヒアリングを行い、経営・事業の課題解決に向けて、J Aや関係機関、専門家等と連携し、適切なソリューションの提供に向けて取り組んでいます。

今後も、ソリューション提供先の課題解決に向けて進捗状況を確認し、取組事例を蓄積していきます。

【具体的取組事例】

業種	米作農業、野菜作農業、加工品生産
概要	<p>米作を中心としながら園芸作物の生産を拡大しており、サツマイモ加工品にも注力している農業法人に対して、経営課題や将来展望等をヒアリングし、課題の抽出・整理を行ったうえで、解決に向けたソリューションの提案を行っています。</p> <p>まず、経営者へのヒアリングを通して、安定した生産体制や組織体制を構築していくにあたり、①部門ごとの専任体制確立・人材育成、②食品衛生法改正に伴うH A C C P対応や③事業承継に向けた課題を共有しました。</p> <p>①専任体制確立・人材育成への課題に対しては、専任体制確立に向けて財務内容等計数分析を中心とした支援を行い、人材育成に向けて役職の設置などにより経営参画意識を高めるための取組みを提案していきます。なお、経営者の依頼に基づき直近決算期の部門別採算性の分析を行い、共有しました。</p> <p>②H A C C P対応への取組みとしては、専門家紹介や情報提供などの支援を行います。なお、当法人の取組みとして加工部門の対応は進んでいるものの、生産部門の対応も必要となる可能性があったことから、保健所への確認を提案しました。</p> <p>③事業承継に向けた取組みとしては、専門家紹介や情報提供などにより、円滑に事業承継が行われるよう継続的に支援を行います。</p> <p>引き続き、経営者との対話を通じて、解決すべき課題の共有と最適なソリューションの提供を行っていきます。</p>
成果(効果)	<p>規模拡大による収量増加および品質向上による付加価値増加により売上高が伸長するとともに、部門別専任体制の確立により採算性も考慮された持続的な事業運営体制が構築されることを期待します。</p>

(6) 被災者等への支援

J Aバンク新潟では、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた農業者や、各種自然災害等の被災者を支援するため、相談窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

【災害対策資金の取組み】

(単位：件、百万円)

取組事例	J A名	内容	件数	貸付実行金額
新型コロナウイルス感染症緊急対策資金	J Aバンク新潟	新型コロナウイルス感染症により影響を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟等からの利子補給による低利の資金を創設	48	254
令和2年度災害復旧支援資金	J Aバンク新潟	大雪等により被害を受けた農業者に対し、J Aグループ新潟等からの利子補給による低利の資金を創設	23	54
令和2年度緊急農業経営安定対策資金	J Aにいがた岩船	高温障害、天候不順による倒伏、鳥獣被害等の影響による品質低下・収量減に伴い収入が減少した農業者に対し、低利の資金を創設	30	61
令和2年度緊急農業経営安定対策資金	J Aかみはやし	高温障害、天候不順による倒伏、鳥獣被害等の影響による品質低下・収量減に伴い収入が減少した農業者に対し、低利の資金を創設	2	2
令和2年災害等復旧支援資金	J A新潟みらい	長雨により被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設	13	27
令和2年度J Aみなみ魚沼災害復旧支援資金	J Aみなみ魚沼	長雨や日照不足等により被害を受けた農業者に対し、低利の資金を創設	6	6
合 計			122	404

(7) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク新潟では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【令和2年度 農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位：先)

		期初経営改善支援取組先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A
正常先 ①		16	14		12	87.5%	
要注意先	うちその他要注意先 ②	55	10	8	40	18.2%	14.5%
	うち要管理先 ③	9	0	1	6	0.0%	11.1%
破綻懸念先 ④		36	8	3	31	22.2%	8.3%
実質破綻先 ⑤		26	10	2	21	38.5%	7.7%
破綻先 ⑥		0	0	0	0	—	—
小計 (②～⑥の計)		126	28	14	98	22.2%	11.1%
合計		142	42	14	110	29.6%	9.9%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は令和2年3月末時点のものです。

(8) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク新潟では、農業者の経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【令和2年度 負債整理資金の貸出実績】

(単位：件、百万円)

資金名	実行件数	実行金額	令和3年3月末残高
農業負担軽減支援資金	8	23	807
畜産特別資金	—	—	35
土地改良負担金対策資金	3	33	490
農業経営負担軽減支援資金	—	—	39
その他	—	—	28
合計	11	56	1,399

(注) 1 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

2 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、J Aなどの融資機関において取り扱っています。

3 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

J Aバンク新潟では、地域と農業者の結び付きを強化し、地域を活性化するため、また地域への社会貢献のため、次の取組みを行っています。

(1) J Aバンク新潟食農教育応援事業の展開

J Aバンク新潟では、将来を担う子供たちの農業や自然環境、金融経済に対する理解を促進することを目的とした「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を展開しています。

主な取組みとして、J A等による子どもを対象とした食農教育活動への助成事業や、補助教材「農業とわたしたちの暮らし」（小学校高学年向け、特別支援学校生向け）の無償配布を実施しています。小学校高学年向け補助教材は県下の小学校445校へ22,250部、特別支援学校生向け補助教材は県下の小学校・特別支援学校27校へ332部を贈呈し、各学校において授業等に活用されています。

また、県下J Aでは、食農教育にかかる様々な実践活動に取り組んでいます。令和2年度においては、県内17J Aが当事業を活用して食農教育活動を実施しました。各J Aがコロナ禍においても創意工夫のうえ、地域の活性化の取組みとして、地域に根差した食農教育活動に力を注いでいます。

【「J Aバンク新潟食農教育応援事業」を活用した各J Aの活動内容】

J A名	活動名	活動内容
J A新潟市	農業体験作文コンクール	小中学生・特別支援学校生を対象に、農業体験学習「学校教育田」の体験に基づく作文コンクールを実施。
J Aささかみ (青壮年部)	学童農園	小学生を対象に、稲作栽培体験を実施。
J A北越後 (女性部)	ヒマワリ種まき体験	園児から中学生まで親子を対象に、ミニヒマワリの種まき体験を実施。
J A胎内市	小学校稲刈り体験学習	小学生を対象に、稲刈り体験学習を実施。
J A新潟みらい	空き容器で野菜づくり	親子を対象に、牛乳パックなどの空き容器を利用した野菜づくり体験を実施。
J A佐渡	茶摘み体験	小学生を対象に、地元農家の指導による茶摘み体験を実施。
J Aにいがた南蒲	なんかん育ちの元気スクール	小学生親子を対象に、年2回のスクール型農業体験において、野菜のプランター栽培教室、果実の収穫、料理教室を実施。
J A越後ながおか	小学生向け料理本「Let'sクッキング」配付	小学生向けのオリジナル料理本を作成し、小学校への配付と出前授業を実施。
J A越後さんとう	笹団子&ちまき 郷土食伝承会	親子を対象に、郷土料理の笹団子とちまき作り体験を実施。
J A越後おぢや	農業体験学習出前授業	小中学生を対象に、野菜苗の移植の出前授業を実施。

J A名	活動名	活動内容
J A北魚沼	J A北魚沼親子タウン	親子を対象に、アグリパークでの農業体験（搾乳、収穫）、調理体験を実施。
J Aみなみ魚沼	夏休み子ども料理教室	例年開催している子ども料理教室の歴代レシピ集を作成し、小学生に配付。
J A十日町	どろんこキッズスクール	小学生を対象に、バケツ稲コンクールを実施。
J A津南町	どろんこ体験学習	小中学生を対象に、野菜、米、花の栽培体験学習を実施。
J A柏崎	稲刈り体験	小学生を対象に、学校田の稲刈り体験を実施。
J Aえちご上越	ちゃぐりん道場	小学生親子を対象に、お米の学習や料理実習を実施。
J Aひすい	大豆栽培と味噌づくり体験	園児を対象に、大豆の栽培、収穫、豆腐と味噌づくり体験学習を実施。

〈J A胎内市 小学校稲刈り体験学習の様子〉



（2）文化的・社会的貢献活動

J Aバンク新潟では、地域社会の一員として、文化、スポーツ、社会福祉、環境などの分野で幅広い地域貢献活動を展開しています。

○新潟市アグリパーク「アグリ・アート展」への協賛

芸術活動を通じて子どもたちの農業への理解を深め、アグリ・スタディ・プログラム※の更なる充実に貢献することを目的として、新潟市アグリパークが主催する絵画展「アグリ・アート展」への協賛を行っています。令和2年度は新潟市内の幼稚園、保育園、認定こども園および小学校の園児・児童より160名の応募がありました。

※アグリ・スタディ・プログラムとは、学習指導要領の内容に基づき、学校のカリキュラムと連動した農業体験学習のことです。

○「アルビレックス新潟」サッカー観戦チケットの寄贈

県内の障害者スポーツ普及活動を支援するため、新潟県障害者スポーツ協会へ、アルビレックス新潟のホームゲーム招待券を寄贈しています。令和2年度は、リーグ戦全21試合、462名の招待券を寄贈しました。

○公益信託「JAバンク新潟県信連創立 50 周年記念・ホームヘルパー支援基金」

新潟県内の社会福祉法人やボランティア団体等を助成対象者とし、ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備等に対し助成を行っています。

○「がんの子どもを守る定期貯金」の受入を通じた、がんの子どもを守る会への寄付金の贈呈

JAバンク新潟では、貯金の受入を通じた小児がん患者への支援を目的として、平成 29 年度より「がんの子どもを守る定期貯金（ゴールドリボン定期貯金）」を取り扱っています。

多くの皆さまから趣旨にご賛同いただいた結果、令和 2 年度は 137 万円を公益社団法人がんの子どもを守る会に寄付することができました。

○「愛の献血」 in JAバンク新潟県信連

新潟県赤十字血液センターのご協力により、平成 11 年度から継続的に団体献血を実施しています。令和 2 年度は 56 名の職員が協力しました。

○エコキャップ運動への参加

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届ける活動に参加しています。

○環境保全への取組み

ビル内の節電対応や、「クールビズ」「ノー残業デー」の実施など、環境保全を意識した取組みを積極的に行っています。

JAバンク新潟では、地球温暖化防止や、地域の森林整備等の促進、豊かな自然環境の保全を支援することを目的に、平成 28 年度からカーボン・オフセット※にも取り組んでおり、令和 2 年度も「にいがた農業応援定期貯金（ほほ笑味）」のクーポン券 1 枚につき、家庭での調理時に排出する 1 食分の CO₂ をオフセットすることで実施しました。オフセットの手段として「トキの森クレジット」を購入し、「トキの森プロジェクト」による新潟県の森林整備を支援するとともに、人とトキが共生する地域づくりを応援しました。

また、これまでの取組みが、新潟県カーボン・オフセット制度の普及拡大に貢献したことを評価いただき、新潟県より感謝状を受贈いたしました。

※カーボン・オフセットとは暮らしの中で出てしまう CO₂ を森林整備等 CO₂ 吸収活動の支援により埋め合わせることです。



以上